

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館		
所在地	〒059-0026 北海道登別市若山町3丁目8番地45 (電 話) 0143-88-3335		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】 (平成 21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 11.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷 金	有 (50,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (3月 9日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.35 歳	最低 66 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵愛病院・さとう歯科・三愛病院・新日鉄室蘭総合病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、個々の利用者の尊厳や生活を守るというユニットケアの理念を職員全員が意識し、利用者個々のペースや希望、能力に合わせた利用者本位の質の高いサービスを提供している。利用者の表情も、穏やかで明るい。共用スペースは清潔で明るく広々とし、昔懐かしい家具や物品が自然に置かれ、心癒される空間となっている。開設5年目であるが、地域住民との交流も深まり、地域に溶け込んだ事業運営を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、職員間で検討し改善に取り組み、運営推進会議も適切に開催している。個人のプライバシーに、よりきめ細かく配慮して関わるといった意識も感じられる。清掃については、それまで家庭的な雰囲気という点を意識するあまり、重視していなかったという反省を踏まえ改善に取り組み、現在特に目に付く問題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに全職員で評価を行い、改善すべき点、より努力すべき点を挙げ、さらなるサービス向上に向けて、評価内容を常に意識して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会と併せて、概ね2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。事業所の運営内容を報告し、家族や地域代表、保険者代表等から助言や意見を得ている。外部評価や自己評価の結果も、会議で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来所した際には、可能な限り利用者の生活状況を伝えるとともに、希望を確認している。来所が困難な家族にも、定期的に電話等で様子を伝えているほか、個別のコメントを記載した広報誌を毎月作成し、利用者の生活状況を伝えている。預かり金についても、出納帳の写しを広報誌に添付し、送付している。また、玄関ホールに匿名で投書できる「ご意見ポスト」を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内会行事にも積極的に参加するとともに、地域の人々が事業所をより身近に感じながら協力し合える関係を築くよう、交流に努めている。開設からの5年間で、その活動は徐々に地域に理解され、近隣住民との関係も深まっている。事業所の避難訓練にも町内会役員が参加するなど、住民の協力を得ている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員で話し合っ作った事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した内容となるまでには至っていない。	○	今後は理念の中に、地域密着型サービスが果たすべき役割を反映できる内容を盛り込むよう検討することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲載したカードを、職員全員が携帯している。日々の会議等で確認し、サービスに活かす意識を持って取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事にも積極的に参加している。そこで築かれた人間関係を広げ、地域の人々が事業所をより身近に感じながら協力し合えるよう、交流に努めている。避難訓練にも町内会役員が参加するなど、住民の協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果は職員全員に周知し、指摘事項の改善方法についての、具体的な方策を話し合い改善している。自己評価については職員全員で行い、求められている点を確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域代表、市職員表、地域包括支援センター職員などが参加し、概ね2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。事業所からは事業内容に関する情報を提供し、運営に対する意見を求めている。しかし、会議で話し合った内容について、全職員に周知するまでには至っていない。	○	運営推進会議で事業所が参加者に提供している情報内容や、そこで話し合われた事柄、参加者の意見等について、職員に伝える仕組みを作ることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議による情報提供だけではなく、日ごろから市の担当課に施設の運営情報を伝える取り組みを行っており、広報誌も毎月担当課に届けて情報提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所した際には、可能な限り利用者の生活状況を伝えるとともに、希望を確認している。来所が困難な家族にも、定期的に電話等で様子を伝えているほか、個別のコメントを記載した広報誌を毎月作成し、利用者の生活状況を伝えている。その際、預かり金の出納帳の写しも添付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には、意見や希望を確認する意識を持ち、意見を聞いている。また、匿名で投書できる「意見ポスト」を玄関前ホールに設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	慣例的、定期的な職員異動は行っていない。また、職員の定着率も高い。職員の変動に対しては、日ごろからユニット間で協力体制を構築し、できるだけ利用者にはダメージを与えないような意識づくりをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的で開催し、外部の研修にも、できるだけ多くの職員が均等に参加している。しかし、内部研修の内容については、具体的な研修計画がなく、また、外部研修の結果についても、参加していない職員に対して、受講内容を周知する体制には至っていない。	○	内部研修については、計画的に実施することが、より適切な研修の実施に繋がるので、事前に研修計画を立案することが望まれる。また、外部研修に参加した職員が得た知識や気づきを、他の職員にも伝える仕組みをつくり、参加者の得た知識を事業所全体の知識としていく取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道のグループホーム連絡会に加入しているほか、西胆振地区の地域組織を作り、3ヶ月ごとに定期研修を開催し、情報交換を行っている。また、市内の事業所が交流できる場を作る取り組みも進行中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の見学は、予定や計画がなくても随時可能であり、職員は丁寧な案内を心がけている。サービス利用開始前には、希望に応じて日中の数時間を過ごしてから、利用の意思決定につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の希望やできる能力を失わないように、過去の生活歴を確認しながら、個別の生活習慣の把握に努めている。ともに生活しているという意識のもと、助け合い、支えあう関係作りの意識を持ち、利用者と関わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの生活歴を表に記載し、思いや暮らしの希望を確認するための資料にしている。意思が確認できない利用者についても、それらのアセスメントを参考にし、家族に希望を確認するなど、本人の意思や希望に沿った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、アセスメントに基づいて、生活課題に対応する目標を適切に設定し、サービスを具体的に示している。利用者の意思や希望を採り入れ、家族の情報提供も活用しながら、潜在的なニーズの把握にも努めている。プランについての説明を適切に行い、同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月プランの実施状況を話し合い、必要に応じ、あるいは定期的に、目標の達成度やサービス内容の評価を確認している。計画の見直しも、適切に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が外泊する際の移動に付き添う支援のほか、家族とともに外出する際にも、求めに応じて移動支援などが可能であり、臨機応変に対応できる体制にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、利用者や家族の希望に応じて、利用開始前からの「かかりつけ医師」への受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応や看取り介護の指針を整備し、その内容については、利用契約時に利用者や家族に説明している。職員にも周知しているが、実際のターミナルケアの際に指針をどう活かすか、指針の内容が適切であるかなど、職員間で十分確認するまでには至っていない。	○	重度化対応や看取り介護の指針の内容について、職員間で検証する機会を作ることが望まれる。内部研修で「看取り介護研修」を実施するなど、職員の重度化対応や看取り介護の知識の向上に努めることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の調査を踏まえ、個人の誇りやプライバシーの保護に向けた一層の意識付けに取り組み、不適切な状況はない。言葉かけや記録の取り扱いも、適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が、利用者の生活習慣の確認と、顕在的・潜在的ニーズの把握に向けた意識を持って取り組んでいる。事業所の都合ではなく、利用者のペースに合わせたサービス提供を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルで職員が利用者と一緒に食事をしながら、さりげない摂食支援や声かけ、見守りを行っている。食事の際には、皆がテーブルでくつろぎ、和気あいあいとした雰囲気の中、利用者も自分なりのペースでゆったりと食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に定めず、利用者の生活パターンや希望に応じて、いつでも入浴できるように支援している。早朝や夜間の入浴希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが、生活習慣、生活リズム、能力、希望に応じて役割をもてるように支援している。食事の準備や後片付けなどの際も、それぞれの役割に応じて、職員とともに活動している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品や食材の買い物にも、利用者が代わる代わる同伴している。日常的に、希望に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。問題となるような閉鎖性は見られない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練を年間2回実施している。そのうち1回は、夜間訓練と通報訓練を行っている。避難訓練には、町内会の協力を得て、近隣住民も参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立については、法人内の別事業所の栄養士が、定期的にチェックしている。また、病状に応じた食事についてのアドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、広々と清潔感あふれる環境で、気になる音や光、臭いもない。自然な形で昔懐かしい家具等を配置し、落ち着けるしつらえとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に応じて、なじみの家具等を持ち込むなど、個性あふれる居心地の良い空間作りをしている。		

※  は、重点項目。